



# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動  
参加園月例会報  
(2023年3月号)

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081  
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



だいぶ暖かくなり、春はもうすぐそこまで来ているようです。

来月から年度も変わり、また新しい活動が始まります。

「子森通信」3月号では、新年度の活動について、その概要をご案内しました。  
今年度こそ、感染症も落ち着き、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

(目次)

1. J P子どもの森づくり運動 2023年度活動計画案
2. リレーエッセイ (2023年3月号)

## ■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

## ■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛：日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会

郵便局の魅力を発信するメディア「JP CAST」は  
下記QRコードからご覧いただけます。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP cast



## 1. JP子どもの森づくり運動 2023年度活動計画案

### 1) 2023年度活動テーマ～子どもの森づくりとSDGs～

JP子どもの森づくり運動は、2022年度、皆さんと共に大きな成果をあげることができました。その成果を踏まえ、2023年度もさらに活動を展開してまいりたいと思います。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2月に開催された「**全国集会&研修会2023**」における協議を踏まえ、JP子どもの森づくり運動の2023年度の活動テーマを、「**幼児期の環境教育（学習）～子どもの森づくりとSDGs～**」としました。SDGsは、次世代のより良き未来を「願う」活動です。わたしたちは、日頃、少し遠いものとして感じているSDGsの活動を、子どものより良き未来を願うとき、はじめて「**我がこと**」として考えられます。



JP子どもの森づくり運動は、SDGsを「我がこと」として取り組む保護者と保育者によって推進されている活動です。長引くコロナ禍の中で子どもたちの自然体験活動が規制されつつある現状を踏まえ、あらためてJP子どもの森づくり運動の森林環境学習としての意義やその方法について、みんなで考え、改善していく1年間としたいと思います。

### 2) 2023年度保育サポート活動（年間活動）

子森ネットでは、これまでも参加園の保育をサポートする様々な活動に取り組んでまいりましたが、2023年度も、下記の活動に取り組んでまいります。活動の詳細は、次月号以降で順にご案内します。

#### ●充実したオンライン講座の開催

2022年度、JP子どもの森づくり運動では、より良き保育を考え、改善するためのオンライン講座を企画・開催しました。2023年度も、年間テーマに沿って、さらに充実したオンライン講座を開催します。講座の詳細は、子森通信次月号にてご案内します。


**JP子どもの森づくり運動「夏期オンライン講座2022」**

【8月講座：子どもの環境】

○テーマ：困難をのりこえる力を育むこどもの環境

○日時：2022年8月20日(土)14:00～15:30

○講師：こども環境学会 代表理事  
環境デザイン研究所 会長  
東京工業大学 名誉教授 仙田 満先生



【お願い】

- 講座開始15分前から受付を開始します。
- 入室の際は、音声はoff、ビデオはon（任意）でご入室下さい。
- 時間になりましたら講座を開始します。講座開始後の入室も受け付けます。

●主催：NPO法人子ども環境ネットワーク（代表理事）03-5363-5211 ●協賛：日本園児会

2022年度夏期講座企画

#### ●共用フィールドの開発

子どもの森づくり活動の障害となるのが、子どもたちが育てた苗木の植樹フィールド探しです。これまでは、活動園ごとに調整してまいりましたが、2023年度より、ブロックごとの植樹が可能な共用植樹フィールドの開発を強化します。まずは、関東・首都圏エリアからということで、2023年度は、千葉県と埼玉県において植樹フィールドの開発に取り組みます。活動は、順次、全国に拡げてまいります。



千葉県植樹フィールド候補地

#### ●情報発信活動の改善

「子森通信」や「子森チャンネル」、ホームページのリニューアルを実施し、効果的な情報発信を実施します。

##### ※子森通信

- ・写真や図を活用した分かりやすいレイアウトを工夫します。
- ・日本郵政グループさん提供の保育に有益な情報もご紹介します。

##### ※子森チャンネル

サブチャンネルを含めて、動画での活動発信を強化します。



YouTubeチャンネル「子森チャンネル」

### 3) 継続プロジェクト

年間サポート活動に続いて、継続的に取り組んでいるプロジェクト活動について概要をご案内します。

#### ●東北復興グリーンウェイブ2023

2023年度、J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動は11年目を迎えました。様々な方のご協力の賜物で、三陸エリアでの活動は、山田町から宮古市、さらに大槌町に拡がりました。また、東北のどんぐりを苗木に育ててくれる全国の参加園も100園を超えました。

子森ネットでは、このような活動こそ、子どもたちのより良き未来づくりにつながる持続可能な復興支援活動であると考え、これからも、活動を展開してまいります。2023年度の植樹活動は、岩手県宮古市と大槌町で5月22日(月)に開催予定です。

\* 詳細は、「子森通信」の次月号でご案内します。



2022年、大槌町に植えられたどんぐりの苗木

#### ●自然・環境体験活動「どんぐりSDGs 劇団全国キャラバン」

2022年度に好評をいただきました「どんぐりSDGs 劇団全国キャラバン」(以下「全国キャラバン」)の2023年度参加園の募集を開始します。「全国キャラバン」は、通常自然体験講座共に、SDGsの大切な心を伝える「どんぐり〜ず」のお芝居をセットにした活動です。

2022年度の実績を踏まえ、2023年度は積極的に活動を拡げてまいります。\* 参加申し込みについては、ホームページでご案内します。



2022年、大阪府「子どもキッズキャンパス」で実施されたどんぐりSDGs劇団公演

#### ●園庭緑化運動2023

J P 子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」(以下「園庭緑化運動」)は、園庭を単なる運動の場ではなく、多様な自然と環境の体験フィールドとして緑化・自然化することを目的に、参加園に対して様々なサポートを提供する活動です。

2021年度からの3年間に渡る第1期のモデル園活動を実施し、確かな成果をあげることができました。2023年度からの第2期では、第1期で培った成果を踏まえ、運動としての活動展開を目指したいと思えます。

\* 詳細、お申込みは同封のチラシをご参照下さい。



「全国集会&研修会2023」会場にて、キッズデザイン賞受賞を記念して、モデル園とプロジェクトコーディネータ仙田先生と記念撮影

#### ●保育防災アクションマイスター認定講座2023

J P 子どもの森づくり運動では、災害列島化したわが国の現状を踏まえ、「本当に子どもたちの命を救う」ために、通常の防災の仕組みや方法が通用しない保育施設に特化した防災のスキルと高い防災マインドを持つ保育防災リーダーの養成を目的に「保育防災アクションマイスター認定講座」に取り組んでいます。

すでに、2021年度(1期生)、2022年度(2期生)を輩出しましたが、2023年度も、3期生の募集を開始します。とても大切な活動です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

\* 詳細、お申込みは同封のチラシをご参照下さい。



「全国集会&研修会2023」会場にて、アクションマイスター2期生と講師の鎌田さんと共に記念撮影。

## 2. リレーエッセイ (2023年3月号)

幼児期・幼少期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース教授 能條 歩 (あゆむ) 先生によるリレーエッセイです。昨年4月からはじまった12回シリーズの最終回です。

### 自然 (生態系) の危機

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



私たちは、生物と非生物が影響しつつ成り立っている“ひとまとまりの関係性 (システム)”に、「山」「海」「川」「サンゴ礁」などの名前をつけています。これらの“ひとまとまりの関係性”は46億年の長い歳月をかけて作られてきたもので、“生態系”とも呼ばれています。「生物と非生物の相互作用」は科学的に言えば「物質とエネルギーの循環」ですが、私たちはそれによって起きているさまざまなことを、恵みや災いとして受け止め、その総体を“自然”と呼んで付き合ってきました。

近年この生態系というシステムは、1) 開発などによる直接のインパクト、2) 里山の荒廃などヒトの影響が減るといふ負のインパクト、3) 化学物質や外来種などのヒトによる持ち込みの影響、4) 人為的原因による気候変動の影響、などによって大きなピンチにさらされています。しかし、私たちにはまだこのことに関する認識が十分ではないようで、私の研究では、日本では特に2) に対する理解が不足していることがわかりました。このことは、



「ヒトも生態系の一員である」という意識が薄くなっていることを示しているように思います。20世紀の終わり頃には、「21世紀は環境の時代だ！」とよく言われていました。あまりいい意味ではなく、「自然や環境のことを気にせずには生きられない時代」という意味だったと思いますが、21世紀になって20年以上経ってもこの状況があまり変わっていないのはとても残念なことです。

子どもたちは、ヒトと自然の関係の修復が課題となっている21世紀を共に生きていかなければなりません。“自然に対する感性”なしに自然や環境のことを気にすることはできないと思いますので、21世紀を生きる世代には、さまざまな機会を捉えて“自然に対する感性”を育むことが必要です。素晴らしい大自然に触れて大きな感動を得る体験も素敵ですが、幼児期に毎日の遊びの中で小さな気づきを積み重ねることで子どもの感性は育まれます。その小さな気づきの積み重ねは、やがて成長するにつれて大きな変化となっていくことでしょう。そのためにも、多くの子ども達の日常が自然と共にあるようになることを私は願っています。

#### 【筆者近況】

3月は大学でも卒業のシーズンです。北海道では桜が咲くのはゴールデンウィークごろなので、卒業と桜のイメージは重なりません。しかし、急速に雪解けが進んで木々や花々の芽吹きを心待ちにする気持ちはまさに北国の春のイメージそのものですし、それは未来に向けての再スタートとしての卒業とも重なります。

外遊びする子どもたちの声が春を運んでくるのももうすぐです。

さて、一年に渡ったこのリレーエッセイも今回で卒業となります。自然体験と環境教育という私のこだわりにお付き合いいただきまして、ありがとうございました。



#### 【謝辞】

12回に渡る能條先生のリレーエッセイが、今月号で終了しました。その間、幼児期の環境教育をテーマに、とても興味深く有意義な原稿をご提供いただきました。あらためて心より御礼申し上げます。蓄積された連載原稿は、後日、とりまとめて参加園の皆さんにご提供できる予定です。どうぞ楽しみに。